共同運営部門：感染症センター

ー概要ー

感染症センターは泉佐野市立感染症センターとして、輸入感染症の国内侵入を阻止するため1994年に関西国際空港対岸のりんくうタウンに建設された。りんくう総合医療センターとして総合的に運用されていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」施行以来、市立泉佐野病院の管轄下に移行した。

現在は、西日本唯一の特定感染症指定医療機関であり、感染救急対応の機能を持つ感染症センターである。特定感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、関西空港検疫所等関連機関との会議や訓練、見学、実習の受け入れ等を実施している。

これまでの経験として、2003年　鳥からヒトへ感染が認められたH5N1亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが、パンデミックインフルエンザ（新型インフルエンザ）に変異することを危惧し体制の強化を図っていたところ、2009年4月豚由来による新型インフルエンザ（2009PandemicH1N1）が発生した。感染拡大防止のため、当センターが中心となり、国内、地域への大きな役割を担った。

2014年　西アフリカでエボラ出血熱がアウトブレイクし、11月7日には我が国3例目（東京での2例目と同日）となるエボラ出血熱疑似症患者（ギニア国籍の20代女性）を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。国立感染症研究所に血液検体を搬送し、エボラ出血熱は否定された。当院にて熱帯熱マラリアであると最終診断し、加療後、経過良好にて11月9日夜に退院となった。

2015年　韓国でMERS（中東呼吸器症候群）が主として病院内でアウトブレイクし、日本への上陸に備えて受け入れ対応訓練を行った。韓国からの搬入はなかったが、9月13日、中東からの帰国者のMERS疑い症例を関西空港検疫所から感染症センター高度安全病床に受け入れた。検査の結果、MERSは否定された。

2016年は疑い患者の搬送はなく、MERSの健康監視者発生の連絡のみであった。

2017年　中国から帰国した鳥インフルエンザ（H7N9）疑い患者を受け入れた。高熱と脱水、呼吸困難、意識朦朧とした状態であった。結果は陰性で季節性インフルエンザと診断された。

感染症センター特殊任務看護師は、感染症センターの円滑な運営及び適正な管理と患者の入院生活を支え、安全に感染症看護を行うための情報共有と不安や疑問を解消して勤務することを目的にミーティングを行っている。2016年から医師と看護師共同で看護手順を基本とした感染症センター版の手順作成を始めた。防護服を着た状態は視野が狭く、手袋を3重に装着するため細かい作業がしにくい状況となる。また、感染曝露のリスクもあり細心の注意が必要となる。処置を行う上での注意点や曝露の機会を減らすため手際よく行うポイントなどを考えた手順を作成した。2017年6月と9月に防護服を着用した状態で処置とケアを実践し手順の検証と見直しを行った。

2016年2月、安倍総理は「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」で、特定感染症指定医療機関について、エボラ出血熱の患者に対する海外での医療機関の対応も踏まえ、エボラ出血熱等の重症患者に対する集中治療が行えるよう設備の充実を計画的に進め、その機能の強化を図るという方針を出された。2016年3月15日（火）財務省と厚生労働省の方が当センターの視察をされ、集中治療のための準備をするよう指示があり、2016年12月に集中治療の医療機器が設置され、2017年　高度安全病床の拡張工事が決定し来年度から施工開始となる。

放射線科技師によりレントゲン撮影を遠隔操作できるよう遠隔操作システムが構築された。また、室内のテレビ画面での画像確認ができるようになり大きく見やすくなった。新たに、臨床工学技士の5名が感染症チームを立ち上げ、血液浄化、体外式膜型人工肺(ECMO)等の集中治療を一緒に担ってくれることとなった。

11月30日　治療、ケア訓練を手順の確認、問題と思うこと、悩んでいることを解決することを目標に行った。ファシリテーターとして国立国際医療研究センター病院、オブザーバーとして成田赤十字病院、東北大学病院、大阪府健康医療部　保健医療室　医療対策課の方々に訓練をご覧いただき、ご指導いただいた。自分たちの考えていることは正しいのか、もっと良い方法はないのかなど悩んでいたことを持ち寄り話し合うことができた。

厚生労働省科学研究　新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究」では、一類感染症対応をする全国の特定感染症指定医療機関、第一種感染症指定医療機関の医療従事者を対象に「一類感染症対策ワークショップ」を開催している。当センターは2014年度から

参加しており、2015年度は当センターで開催された。2016年度からは東京と大阪の2カ所の開催で、国立国際医療研究センターとりんくう総合医療センターで開催された。毎年、日本の国際感染症対策の方向性を知るとともに、他施設の取り組みや問題点を共有することにより、自施設の取り組みのふり返りや今後やるべきことがイメージできる研修で、日本の感染症治療、看護の方針を考える有意義な場である。各機関がレベルを上げるために集まり学習しているが、特定感染症指定医療機関、第一種感染症指定医療機関、自治体の担当者が異動や退職等で変わることで、これまで蓄積されたことが継続されないことが課題となっている。まもなく全国すべての都道府県に第一種感染症指定医療機関が設置される。都道府県で区切らず協力できる関係構築が重要である。

―実績―

感染症センター見学者

6月28日(水)	大阪医科大学　地域産業保健実習　10名
7月21日(金)	関西医科大学　公衆衛生学実習　8名
9月14日(木)	奈良県立医科大学　公衆衛生学実習10名
10月30日(月)	タイ　マヒドン大学　看護大学院生2名
11月7日(火)	大阪府国民健康保険団体連合会　10名
12月14日(水)	市立東大阪医療センター視察団　4名
2月8日(木)	タイ　マヒドン大学付属病院医師　1名
2月20日(火)	カナダ・オンタリオ州企業団視察　25名

特殊任務看護師ミーティング

4月14日	5月12日	6月9日	7月14日	9月8日
10月13日	11月10日	12月8日	1月12日	2月9日
3月9日				

院内訓練

6月9日(金)	治療、ケア訓練　手順検証
9月8日(金)	治療、ケア訓練　手順検証
10月3日(火)	気管挿管訓練
10月12日(木)	ECMO訓練
10月17日(火)	ECMO穿刺訓練
11月16日(木)	防護服着脱訓練
11月17日(金)	防護服着脱訓練

合同訓練

11月30日(木)	治療、ケア訓練 特定感染症指定医療機関合同
12月1日(金)	一類感染症対策ワークショップ 「一類感染症受け入れ体制整備研修会」
2月28日(水)	MERS患者対応受け入れ訓練 (厚生労働省関西空港検疫所,大阪府,泉佐野保健所)
3月15日(木)	エボラ患者対応救急搬送、受け入れ訓練 (大阪府,和泉保健所)

院外訓練研修参加

12月14日(木)	2017年度大阪港・阪南港検疫感染症総合措置訓練 鳥インフルエンザA(H7N9)疑い患者発見時の対応の確認 倭　正也
12月21日(月)	一類感染症対策ワークショップ 「一類感染症受け入れ体制整備研修会」 フクラシア八重洲　倭　正也、深川敬子
12月18日(月)	香川県、香川県立中央病院一類感染症訓練 山内真澄、深川敬子
1月24日(水)	2017年度関西空港検疫所検疫措置訓練 新型インフルエンザ訓練 倭　正也、深川敬子

大阪府、関西空港検疫所、大阪検疫所関連会議

6月23日(金)大阪港・阪南港健康危機管理連絡会議 (1)新型インフルエンザ等発生時の協力依頼事項の確認について (2)海外における感染症の流行について (3)その他 高橋利治
6月23日(金)関西空港健康危機管理連絡会議 (1)平成28年度検疫措置訓練実施報告について (2)検疫感染症等の発生動向について (3)空港及び航空機内における媒介蚊対策について 倭　正也
8月28日(月)大阪府　ダニ媒介感染症を媒介するダニ等における対策検討会　大阪府立大学りんくうキャンパス 倭　正也
10月25日(水)大阪府感染症連絡会　ペストについて 倭　正也、山内真澄、深川敬子
3月16日(金) 2017年度大阪府感染症媒介動物対策等検討会 倭　正也

厚生労働省会議

5月29日(火)	第9回厚生科学審議会感染症部会新型インフルエンザ対策に関する小委員会 倭　正也
8月30日(水)	新型インフルエンザ対策におけるプレパンデミックワクチンの今後のあり方に関する勉強会 倭　正也
12月25日(月)	第11回厚生科学審議会感染症部会新型インフルエンザ対策に関する小委員会 倭　正也

その他

7月23日(日)	生物テロ・バイオ災害対策担当者養成講習会 倭正也
12月16日(土)	日本医療研究開発機構(AMED)　熱帯病治療薬研究班会議 倭　正也
3月9日(金)	厚生労働省結核感染症課による感染症センター調査

―今年度の成果と反省点―

各職種がそれぞれの強みを生かして準備を行ってきた。訓練を通して、各職種がこれまで行ってきたことの検証を行うことができ、意思統一を図ることができた。この1年で様々なことが円滑に進み、協働の有難さを感じている。事務職も含め各職種との一体感を実感した1年であった。

―来年度への抱負―

患者やご家族の気持ちを十分に理解して支援を行い、安心して治療に専念していただけるよう、引き続き各職種と協力しで体制を整えていき対応マニュアルに反映させていきたい。